研究

幼児を持つ母親の幼稚園および保育所の 選択条件に関する調査

—看護師・養護教諭の配置の影響—

荒木田美香子¹⁾, 佐藤 潤¹⁾, 臺 有桂²⁾
山下瑠璃子³⁾, 青柳 美樹⁴⁾, 津島ひろ江⁵⁾

〔論文要旨〕

本研究は母親の保育所および幼稚園（幼児教育機関）の選択の意向に対する看護師や養護教諭（看護職等）の存在の影響を検討することを目的とした。幼児教育機関を利用中の3歳以上の子どもを持つ母親544名を対象にインターネット調査を実施した。通園所要時間、保育環境、看護職等の配置、保育料の4属性にてコンジョイント分析を行った。看護職等の配置の平均相対重要度は最も低かった。しかし、現在通園している幼児教育機関の看護職等を認知している場合、さらに看護職等を認知し且つ子どもの健康上の気がかりがある場合では相対重要度は上昇した。子どもの健康上の気がかりがない母親も非常勤勤務の看護職等がいて健康相談の機会がある状況を選択していた。

Key words : コンジョイント分析, 保育所の看護師, 幼稚園の養護教諭, 母親の選択

I. はじめに

市町村の保健部門では子どもの誕生から3歳までの成長発達の節目に健康診査や健康相談を行い継続的な育児支援を展開している。3歳以降は保育所や幼稚園（以下、幼児教育機関）に入園する子どもが多く、5歳児では約97%がいずれかの施設に在園しており¹⁾、その場合は、健康管理についても幼児教育機関がその一端を担っている。入園後に集団生活の中で子ども同士のコミュニケーションが取れない、トラブルが多発するなどの問題から発達障害が明らかに

なることがあり²⁾、発達障害が関与するものか個人差やしつけの問題なのかの判断が難しい場合もあるため、幼児教育機関において保護者の育児支援が必要とされている。

保育所保育指針では、保育所は子どもの保育だけでなく、保護者の就労状況や子どもとの関係を踏まえた適切な支援や地域の子育て支援、さらには保護者の養育能力の向上を推進するための役割が求められている³⁾。また、平成17年の文部科学省答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」¹⁾では、生涯にわたる人間形成の基礎が培

Preferences of Mothers with Preschool Children in Day Nurseries and Kindergartens Investigated Using Conjoint Analysis :

[2178]

The Influence of Employment of Nurses and School Nurse-teachers

受付 09.10.30

採用 10. 5. 7

Mikako ARAKIDA, Jun SATO, Yuka DAI, Ruriko YAMASHITA, Miki AOYAGI, Hiroe TSUSHIMA

1) 国際医療福祉大学小田原保健医療学部（研究職/保健師）

2) 横浜市立大学（研究職/保健師）

3) 徳島文理大学（研究職/保健師）

4) 国際医療福祉大学（研究職/保健師）

5) 川崎医療福祉大学（研究職/保健師）

別刷請求先：荒木田美香子 国際医療福祉大学小田原保健医療学部 〒250-8588 神奈川県小田原市城山1-2-25

Tel/Fax : 0465-21-6605

われる幼児期に、地域や幼児通園施設が協力して、適切な保育および幼児教育が実施されることが望ましいとしている。さらに幼稚園教育要領⁴⁾でも保護者支援に対する幼稚園の役割を明確に示している。

子育て支援センター利用者の相談内容の62.4%は保健衛生(身体発育, 身体症状, 食事, 排泄, 睡眠, 感染症, 予防接種)に関する相談であり⁵⁾, 乳幼児を持つ保護者への育児支援には保健情報の提供が必須である。これらの保健情報を提供する立場にある専門職として保育所に勤務する看護師と幼稚園の養護教諭(以下, 看護職等)がある。看護職がいる保育所では, 保護者が保育士に健康について相談する割合が高いことから⁶⁾看護職の配置は保育士の健康相談の機能を促進する働きがあることが推察される。

保育所における看護職の配置は厚生労働省通達により0歳児保育の定員が9名以上ある場合は看護師を配置することとされているが, 保育所全体を対象とした調査では看護職が配置されている保育所は約5割程度であり, 嘱託医や保健所や市町村の保健師との連携も少ない⁷⁾。一方, 幼稚園養護教諭の配置は幼稚園設置基準により努力義務と規定されており, 平成20年の学校基本調査では養護教諭を配置している幼稚園は兼務者も含め6.9%に止まっている⁸⁾。これまで, 看護職等の配置状況調査や業務内容に関する調査は行われているが^{7,9)}, 看護職等が配置されていない幼児教育機関の保護者も含めて看護職等の役割を調査したものは少ない。看護職等の配置されていない幼児教育機関に通園する保護者は, 看護職等による健康相談や育児支援といった保健サービスを経験していないために, その有用性に気づいていない可能性もある。そこで, 本研究は幼児教育機関に勤務する看護職および養護教諭の配置の推進および健康管理体制の充実に向けた基礎資料を得るために, 健康サービスの受け手である保護者を対象に, 母親の幼児教育機関の選択の条件としての看護職の存在の影響を検討することを目的とし, 以下の仮説について検討した。

1) 子どもの健康上の気がかりを持つ母親は, 看護職等を配置した幼児教育機関を選択する

意向が強い。

2) 看護職等がいる幼児教育機関に通園している母親は, 看護職を配置した幼児教育機関を選択する意向が強い。

II. 方 法

1. 対象と方法

3歳から未就学の幼児を持つ保護者500人を対象としてインターネットを活用した構成的質問調査を計画した。幼児の健康に関する先行研究では, 回答者の大多数が母親であることから, 今回の調査対象者は母親とした。

goo リサーチを管理運営する NTT レゾナント株式会社 に調査を依頼した。goo リサーチのモニター契約者のうち3歳から未就学の幼児を持つ母親を対象に平成20年12月に2段階の調査を行った。第1段階は, 3歳以上未就学の幼児を持つと回答のあった女性登録者にメールで調査の開始が伝えられ, 幼児教育機関利用者であるかどうかを確認した。第2段階は, 第1段階で「幼児教育機関を利用している」と回答のあったものに, 再度メールで調査の開始が伝えられ, 同意したものがweb上で回答を行った。調査にあたっては, 幼児教育機関の健康情報提供を改善するための調査であることがメールおよび調査画面でインフォメーションされた。その結果544名が調査開始後30時間以内に回答し, 予定数に至ったため, 調査を終了した。

2. 質問項目と分析

第1段階では, 3歳以上未就学の子どもの保育所・子ども園・幼稚園に通園している子どもの有無と何番目の子どもかを尋ねた。第2段階では, 母親の幼児教育機関の選択意向を尋ねた。選択の条件は先行研究¹⁰⁾により, 自宅に近い, 勤務先が近いなどの利便性, 先生方の印象が良い, 保育所全体の環境・設備が充実しているなどの保育環境が関係していることより, 通園所要時間, 保育環境を設定し, 加えて看護職等の配置, 保育費用の4属性とした。それぞれ3水準(表1)の組み合わせより選択の条件を確認した。選択の条件に関連する要因として家族形態, 相談相手の有無, 年収, 幼児教育機関の看護職配置状況, 子どもの健康上の気がかりを質

表1 母親の幼児教育機関の選択に関する条件

属性	定義	水準
通園所要時間	自宅や職場から園や通園バスの最寄り場所までの徒歩・自転車・車での合計時間	10分以内 10～20分程度 20分以上
保育環境	園庭の大きさや遊具, 園で提供のおやつや給食	園庭広い/手作りおやつ 園庭平均的/おやつはほぼ手作り 園庭狭い/おやつは既製品
看護職の配置	園に勤務する看護職の有無と健康相談の有無	常勤/健康相談あり パート/健康相談あり 配置なし/健康相談なし
保育料	保育料などの諸費用	4～5万円 3～4万円 3万円未満

幼児教育機関：保育所や幼稚園を示す。

問した。

各属性の水準の設定理由は次のとおりである。通園所要時間は都会では駅の近辺にある施設も多いが、幼稚園では通園バスの利用、地方では車での送迎もあることより、最寄り場所までの徒歩・自転車・車での合計時間を3段階で設定した。保育費用は平成20年度の3歳児以上の保育料の国の基準が所得税額により、負担なし～7万円まで設定されている。また、私立保育所の諸費用を含む保育料をインターネットで検索したところ、4歳児クラスで3万円前後が最も多いことより、3万円未満、3万～4万円、4万～5万円の3段階とした。保育環境については、保育士や幼稚園教員数は基準が定められていることより^{11,12)}、調理面と遊びの面から条件を設定した。児童福祉法施設最低基準の改定により、調理業務について外部委託も導入されている¹³⁾ことから手作り調理について、また遊びについては園庭の広さと遊具の充実に関する主観的な判断を質問項目とした。看護職の配置状況については、平成20年の学校基本調査では幼稚園に勤務する養護教諭は本務者が456人、兼務者484人となっており、園によっては週に何回か養護教諭が来園するという状況があること、保育所では0歳児保育を行っているところ以外では看護職の配置率が低下することより、看護職等がない、パートタイムの勤務であるが健康相談の機会がある、常勤であり健康相談が受けられる、の3水準を設定した(表1)。この4属性3水準の組み合わせでSPSS日本語

版 Ver.17.0を用いて直行配列表をもとに11通りの条件の仮定の幼児教育機関を作成し、「次のような条件の幼稚園・保育園・子ども園があると仮定して、あなたは自分のお子さんをどの程度通わせたいと思いますか?」と質問し、それぞれ「是非通わせたい」～「通わせたくない」までの5段階で回答を求めた(表2)。分析は、SPSS日本語版 Ver.17.0を用いてクロス集計ならびにコンジョイント分析を行った。コンジョイント分析とは、商品やサービスの持つ複数の要素について、顧客が価値を置いている点や顧客に最も好まれるような要素の組み合わせを統計的に検討する手法である¹⁴⁾。

本研究は国際医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施した。NTT レゾナント株式会社からは、個人が特定される情報については一切受け取っていない。また、年収に関する回答には「答えたくない」との項目を設け、回答者の感情に配慮をした。

Ⅲ. 結 果

1. 回答者の社会的な背景、幼児教育機関の状況(表3, 表4)

回答者の在住地域は47都道府県にわたり、平均年齢は34.7±4.5歳であった。

回答者の68.4%が専業主婦、81.3%が核家族であった。また、24.6%が年収650万円以上と回答した。子育てのことで相談者がいると回答したものは91.4%であった。調査の中で通園している幼児教育機関の種類を確認はしていない

表2 幼児教育機関の条件に関する質問内容と選択の状況

N=544 n (%)

	通園 所要時間	保育環境	看護職の配置	保育料	是非通わ せたい	通わせても 構わない	どちらとも いえない	できれば 通わせたく ない	通わせ たくない
A園	20分以上	園庭は狭い おやつや給食は既製品の 使用が多い	週2～3回の看護師 の勤務あり 健康相談は実施可能	4～5万円	0(0)	15(2.8)	51(9.4)	166(30.5)	312(57.4)
B園	20分以上	園庭は広く遊具も充実 手作りのおやつや給食を 提供	看護師はいない 健康相談は実施して いない	3～4万円	20(36.8)	182(33.5)	145(26.7)	112(20.6)	85(15.6)
C園	10～20分 程度	園庭は狭い おやつや給食は既製品の 使用が多い	常勤の看護師がいる 健康相談も実施可能	3～4万円	1(0.2)	49(9.0)	145(26.7)	194(35.7)	155(28.5)
D園	20分以上	園庭の広さや遊具は平均的 おやつや給食はほぼ手作 りであるが、既製品もある	常勤の看護師がいる 健康相談も実施可能	3万円未満	53(9.7)	255(46.9)	114(21.0)	69(12.7)	53(9.7)
E園	10～20分 程度	園庭は広く遊具も充実 手作りのおやつや給食を 提供	週2～3回の看護師 の勤務あり 健康相談は実施可能	3万円未満	308(56.6)	178(32.7)	36(6.6)	11(2.0)	11(2.0)
F園	10～20分 程度	園庭の広さや遊具は平均的 おやつや給食はほぼ手作 りであるが、既製品もある	看護師はいない 健康相談は実施して いない	4～5万円	8(1.5)	86(15.8)	158(29.0)	177(32.5)	115(21.1)
G園	10分以内	園庭の広さや遊具は平均的 おやつや給食はほぼ手作 りであるが、既製品もある	週2～3回の看護師 の勤務あり 健康相談は実施可能	3～4万円	85(15.6)	259(47.6)	127(28.9)	43(7.9)	30(5.5)
H園	10分以内	園庭は狭い おやつや給食は既製品の 使用が多い	看護師はいない 健康相談は実施して いない	3万円未満	8(1.5)	80(14.7)	172(31.6)	160(29.4)	124(22.8)
I園	10分以内	園庭は広く遊具も充実 手作りのおやつや給食を 提供	常勤の看護師がいる 健康相談も実施可能	4～5万円	53(9.7)	160(29.4)	192(35.3)	82(15.1)	57(10.5)
J園	10分以内	園庭は狭い おやつや給食は既製品の 使用が多い	常勤の看護師がいる 健康相談も実施可能	3万円未満	22(4.0)	107(19.7)	195(35.8)	140(25.7)	80(14.7)
K園	10分以内	園庭の広さや遊具は平均的 おやつや給食はほぼ手作 りであるが、既製品もある	常勤の看護師がいる 健康相談も実施可能	3万円未満	271(49.8)	213(39.2)	48(8.8)	3(0.5)	9(1.7)

が、「保育所や子ども園には通わせていない」という質問項目に29.8%が回答しているため、約3割が幼稚園、約7割が保育所や子ども園に通園していると考えられる。看護職等がいると回答し、看護職等の存在を認知していた母親は12.9%であった。

2. 子どもの健康上の母親の気がかり(表5)

子どもの健康上の気がかりがないと回答したものは36.6%であり、60%以上の母親が何らかの気がかりを持っていた。気がかりとして母親が選択したものは、アトピー性皮膚炎や喘息などのアレルギー疾患が23.0%であり、さらに食物アレルギーは7.2%あり、アレルギー疾患に

関する気がかりが多い。次いで、食物の好き嫌い(偏食)が14.3%、痲癩を起すことがよくあるが10.8%であった。また、友だちと遊べない、痲癩を起すなど発達障害の特徴を現す7項目中、3項目以上が気がかりであると回答した母親は42名(7.7%)であった。

3. 母親の幼児教育機関の選択の条件

A～K園のうち、「ぜひ通わせたい」という回答の多かった園はE園(56.6%)、K園(49.8%)であり、いずれもパートタイムの看護職の勤務がある園であった。反対に「通わせたくない」の回答が多い園はA園(57.4%)、C園(28.5%)であった(表2)。

表3 回答者の背景

項目	n=544	%
地域		
北海道	37	6.8
東北	33	6.1
関東	181	33.3
甲信越	30	5.5
東海	55	10.1
近畿	98	18.0
山陽山陰	36	6.6
四国	21	3.9
九州・沖縄	53	9.7
年代		
20歳代	70	12.9
30歳代	396	72.8
40歳代	78	14.3
現在、保育所・幼稚園に通園している子ども		
第1子	340	62.5
第2子	211	38.8
第3子	55	10.1
現在の職業		
専業主婦	372	68.4
パート・非常勤	94	17.3
常勤	59	10.8
自営業	12	2.2
その他	7	1.3
家族形態		
核家族	442	81.3
3世帯家族	78	14.3
単身親と子ども	11	2.0
その他	13	2.4
年間の世帯収入		
249万円以下	45	8.3
250～349万円	49	9.0
350～449万円	73	13.4
450～549万円	105	19.3
550～649万円	102	18.8
650万円以上	134	24.6
答えたくない	36	6.6
子育てのことで相談できる親戚や友人の存在		
いる	497	91.4
いない	47	8.6

全体のコンジョイント分析結果では、保育環境の平均相対重要度が最も高く、看護職等の配置が最も低かった(表6)。この傾向は、気がかりの有無、看護職等の有無などサブグループ別の結果においても同様の傾向を示した(表7)。看護職等の配置に関する相対重要度は、看護職等の配置があるグループで21.7に上昇し、さらに看護職等の配置があり子どもの健康の気がかりがあると回答したグループでは22.0であった。反対に、看護職等の配置がなく子どもの健康上の気がかりがないと回答した群では、最も低く17.2であった。自己申告の年収

表4 通園中の幼児教育機関の状況

項目	n=544	%
通園施設の設置主体		
市町村立などの公立	166	30.5
私立・社会福祉法人など	378	69.5
通園施設は0歳児保育をしているか		
実施している	163	30.0
実施していない	208	38.2
わからない	11	2.0
保育所や子ども園には通わせていない	162	29.8
看護師・保健師や養護教諭の存在		
いる	70	12.9
いない	362	66.5
わからない	112	20.6
看護師・保健師や養護教諭がいる(再掲)	70	100.0
保育所や子ども園には通わせていない	11	15.7
それ以外	59	84.3

幼児教育機関：保育所や幼稚園を示す。

表5 子どもに関する母親の気がかり

項目	n=544	%
食物アレルギーがある	39	7.2
アトピー性皮膚炎や喘息などのアレルギー疾患がある	125	23.0
運動や生活の配慮が必要な慢性疾患がある(心臓病/糖尿病など)	5	0.9
医療的なケアが必要である(痰の吸引、経管栄養、導尿など)	0	0.0
集団遊びを好まない	28	5.1
痲癩を起こすことがよくある	59	10.8
そわそわしたり、落ち着きがない	49	9.0
転んだり、ケガが同年代の子どもより多い	18	3.3
同年代の子どもより不器用な気がする	48	8.8
お友だちと上手に遊べない	41	7.5
排泄や着替えなどの生活習慣の獲得が遅れているような気がする	28	5.1
言葉の発達が遅れているような気がする	33	6.1
運動機能が遅れているような気がする	21	3.9
身長や体重の発育が遅れているような気がする	33	6.1
指しゃぶりやチックなど気になる癖がある	52	9.6
おねしょ(夜尿)の回数が多い	46	8.5
好き嫌い(偏食)が著しい	78	14.3
発音が気になる	26	4.8
その他	21	3.9
気がかりなことはない	199	36.6

を分布で二分し、年収の高いグループと低いグループで保育所の選択状況を検討したが、看護職等の配置の相対重要度はそれぞれ18.3と18.8であり、ほとんど変化がなかった。看護職等の配置に関しては、子どもの健康上の気がかりがない場合でも、パートタイム勤務で健康相談が受けられるという水準で部分効用値が最も高くなった。看護職等の存在を認知しているグルー

表6 母親の幼児教育機関の選択状況1
看護職の配置の有無別/収入状況別

		全体 N=544		看護職配置あり n=70		看護職配置なし n=474		収入が高い n=236		収入が低い n=272	
		平均相対 重要度	部分 効用値	平均相対 重要度	部分 効用値	平均相対 重要度	部分 効用値	平均相対 重要度	部分 効用値	平均相対 重要度	部分 効用値
距離	近い		.170		.169		.145		.189		.162
	普通	21.0	.119	21.0	.155	20.6	.116	21.5	.106	21.2	.138
	遠い		-.290		-.324		-.261		-.294		-.300
保育環境	良くない		-.849		-.802		-.860		-.856		-.827
	普通	34.8	.248	33.8	.256	35.1	.237	35.4	.238	34.0	.242
	良い		.602		.546		.622		.617		.584
看護職等の配置	いない		-.307		-.411		-.277		-.264		-.337
	パート	18.6	.313	21.7	.285	17.8	.313	18.3	.290	18.8	.338
	常勤		-.006		.126		-.036		-.025		-.001
費用	安い		-.516		-.449		-.538		-.495		-.532
	普通	25.4	-1.033	23.5	-.899	26.2	-1.076	24.4	-.990	26.0	-1.064
	高い		-1.549		-1.348		-1.614		-1.485		-1.595
	定数		3.928		3.715		3.971		3.910		3.927

コンジョイント分析
幼児教育機関：保育所や幼稚園を示す。

表7 母親の幼児教育機関の選択状況2
子どもの健康上の気がかりの有無別/看護職の配置状況と気がかりの有無別

		気がかりあり n=345		気がかりなし n=199		看護職配置なし&健康 の気がかりなし n=140		看護職配置あり&健康 の気がかりあり n=46	
		平均相対 重要度	部分 効用値	平均相対 重要度	部分 効用値	平均相対 重要度	部分 効用値	平均相対 重要度	部分 効用値
距離	近い		.151		.205		.106		.148
	普通	21.0	.133	21.2	.095	20.1	.145	21.5	.156
	遠い		-.284		-.300		-.251		-.304
保育環境	良くない		-.820		-.901		-.841		-.748
	普通	34.5	.235	35.3	.269	35.0	.232	33.2	.230
	良い		.584		.632		.609		.519
看護職等の配置	いない		-.291		-.337		-.249		-.393
	パート	18.3	.293	19.0	.349	17.2	.294	22.0	.267
	常勤		-.003		-.012		-.044		.126
費用	安い		-.517		-.515		-.554		-.437
	普通	26.2	-1.034	24.0	-1.030	27.7	-1.109	23.3	.874
	高い		-1.552		-1.544		-1.663		-1.311
	定数		3.965		3.863		4.029		3.674

コンジョイント分析
幼児教育機関：保育所や幼稚園を示す。

プでは常勤の看護職等の配置で部分効用値が正の値となった。

IV. 考 察

幼児教育機関に通園している母親への園の選択の条件に看護職等の配置を加えた調査はこれ

までになく、園を利用する母親のニーズを推察するものとして貴重である。

平成19年の出生順位別にみた母親の年齢は30.7歳であり¹⁵⁾、今回の回答者が3歳以上の未就学児童を持つ母親であることを考慮すると、平均年齢が34.7歳というのは妥当な年齢であ

る。本研究対象者の回答者が全国にわたっており、代表性のある回答者といえよう。しかし、平成20年の総務省家計調査から30歳代（2人以上世帯）の平均的世帯収入は530万円から600万円前後であり、本研究対象者の最頻値は650万円以上であること、本調査はweb調査であり、インターネットを使用できる環境と能力のある対象者であるということを考慮する必要がある。

母親の幼児教育機関の選択の条件において、看護職等の配置の相対重要度は他の属性に比べて低かった。しかしながら、看護職等の存在を認知している母親のグループおよび子どもの健康上の気がかりがあり且つ看護職の存在を認知しているグループでは平均相対重要度が上昇した。これらのサブグループでは部分効用値も看護職等の常勤が正の値を示し、看護職等の存在が母親の幼児教育機関選択において影響を与えていることがわかった。

看護職等の配置に対する相対重要度が低かった要因として、まず保護者が看護職と保育士との明確な区別ができていなかった可能性がある。本研究で保育所や子ども園には通園させていない（幼稚園に通園させている）という回答を除き、看護職等が園に存在していると認知していた母親の人数は59名であった。0歳児保育をしていると回答したものが163人であり、その36%の母親のみが保育所の看護職等を認識していたことになる。この割合の低さは実際の看護師の配置状況を反映しているというよりは、保育所の看護職は0歳児保育の要員となっており、母親が看護職と保育士を区別できていない可能性があると考えられ、保育所の保護者が看護職の配置を認識する割合が少ないという点で先行研究の結果と一致する⁹⁾。次に、コンジョイント分析における水準の設定の問題である。水準間に相違が少ない場合は相対重要度が小さく見積もられることがある¹⁴⁾。今回の質問項目では看護職は常勤でもパートタイム勤務でも、保護者は健康相談が受けられるという内容となっており、保護者が受けることができる保健サービスに明確な違いを印象付けられなかった可能性がある。母親は幼児教育機関を選択する際には、園庭の広さや手作り給食な

どの保育環境を最も高く評価する傾向にあった。幼児教育機関の看護職等は小児感染症など伝染性の感染症のサーベイランスと園内での拡大を予防できる衛生的な保育環境や伝染防止を考慮した保育方法の実行に貢献しており^{16,17)}、保育環境改善への間接的な効果をもたらしている。また、アレルギー事故の予防において看護職等は重要な役割を果たしているが¹⁶⁾、これらの看護職等の間接的サービスを十分に設問に反映していなかったことも、看護職等の配置に対する相対重要度が低くなった理由と考えられる。

仮説1では、母親が子どもの健康上の気がかりを有している場合は看護職等の配置への相対重要度が上昇すると仮定したが、気がかりの存在だけでは上昇せず、仮説を検証することはできなかった。しかし、看護職等の存在を認知していた場合に相対重要度は4ポイント、また子どもの健康上の気がかりがあり且つ看護職の配置を認知している場合は相対重要度が5ポイント上昇したことより、仮説2は検証することができたといえる。また、このことより健康上の気がかりがあっても、身近に看護職等の保健医療専門職がない場合は、保護者の健康相談ニーズが満たされず、潜在化する可能性があると考えられる。強い動機や必要性がない場合、それを満たすための行動は生じにくいだが、試行的に直接的あるいは代理体験などで間接的に経験することにより高いレベルの信念を獲得し、行動に向けた動機が強化されるといわれる¹⁸⁾。今回の調査で質問した子どもの健康上の気がかりは重篤な疾病ではなく、医療機関への受診や市町村の保健センターへの相談行動を採るほどの強い動機とはなりにくいだが、身近な幼児教育機関の看護職等には相談できることであり、相談することにより納得や安心を得ることで、看護職等への価値観を高めることにつながると予想される。

保育所の施設長を対象とした調査では、看護職に期待する役割として体調不良児・傷病児への対応（49.2%）がトップであり、次いで園児の健康観察（21.5%）、乳児の保育（10.2%）であった¹⁹⁾。しかし、本調査では60%以上の母親が子どもの健康上の気がかりがあると回答し

ており、その内容は食物アレルギーなど生命にかかわるものや心理社会面の発達に関するものなど幅広いものであった。幼児教育機関に勤務する看護職等は体調不良児・傷病児への対応に止まらず、保護者支援、保育士や幼稚園教諭の支援、施設の保健環境の改善を含めた機能^{9,16)}を果たすことが期待されている。また、看護職等の配置の部分効用値は、子どもの健康上の気がかりがない場合でも、看護職等がパートタイム勤務で健康相談が受けられるという水準で最も高くなっていった。乳幼児を持つ母親は専門職による1対1の面談による情報提供を好む傾向があることより²⁰⁾、身近な幼児教育機関で健康相談が受けられるよう、看護職等の配置を一層推進させることが望まれる。

なお、本研究の結果は以下のバイアスがあることを考慮する必要がある。まず、方法としてweb調査であり、インターネットを利用できる環境にある経済的に豊かな人が対象となり、また知的好奇心の高い人が多い可能性もある。また、保育所や幼稚園を実際に選択する際には小さな市町村では1ヶ所しかなく選択の余地がない場合がある。さらに、今回は4属性以外の条件は全く同じであると仮定して回答を依頼した。そのため、現実的な生活環境下での回答にはなり得ていない可能性がある。なお、世帯収入や近隣のサポート体制、医療機関の状況などは地域によって異なるため、今後は地域の特性と幼児教育機関の選択の条件の関係についても検討する必要がある。

V. 結 論

3歳以上の未就学児を持つ母親を対象に、通園所要時間、保育環境、看護職等の配置、保育料の4属性によるコンジョイント分析を行い、保育所や幼稚園の選択条件に関する意識を検討した。看護職等の配置の平均相対重要度は最も低かった。しかし、現在通園している幼児教育機関に看護職等がいることを認知している場合、さらに子どもの健康上の気がかりがあり且つ看護職の存在を認知している場合では看護職の配置の相対重要度が上昇した。また、子どもの健康上の気がかりがない母親においても、パートタイム勤務の看護職等がいて健康相談が

受けられるという状況を選択する傾向があり、幼児教育機関の看護職等の配置に関する母親の期待が推察された。

なお、本研究は平成20年度「健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用および思春期やせ症防止のための学校保健との連携システム構築に関する研究」の分担研究として実施し、結果の一部を報告書に掲載している。

文 献

- 1) 中央教育審議会. 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について(答申). 文部科学省. 2005.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyochukyo0/toushin/05013102.htm. アクセス2009.10.25
- 2) 池田友美, 郷間英世, 川崎友絵, 他. 保育所における気になる子どもの特徴と保育上の問題点に関する調査研究. 小児保健研究 2007;66(6): 815-820.
- 3) 厚生労働省. 保育所保育指針解説書. 東京:フレール館. 2008: 174-187.
- 4) 文部科学省. 幼稚園教育要領. 東京:フレール館. 2008: 13-16.
- 5) 西村重稀, 安井弘二, 天谷泰公. 保育所の相談事業に関する保健学的研究—保健衛生相談に関する調査—厚生科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業) 分担研究報告書. 2001: 468-485.
- 6) 荒木田美香子, 佐藤 潤, 綾部明江, 他. 幼児通園施設(幼稚園・保育所)の母親への情報提供機能に関する研究. 健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用および思春期やせ症防止のための学校保健との連携システム構築に関する研究. 平成20年度総括・分担研究報告書. 2009: 104-110.
- 7) 深水京子, 荒木田美香子. 保育所における保護者への保健情報提供に関する要因の検討. 小児保健研究 2008: 67: 738-745.
- 8) 文部科学省. 学校基本調査(平成20年度), 幼稚園. 2008.
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/08121201/001.htm. アクセス2009.10.25

- 9) 木村留美子, 棚町祐子, 田中沙季子, 他. 保育園看護職者の役割に関する実態調査 (第1報) 保育園看護職者の役割遂行状況と看護職者に対する保育士・保護者の認識. 小児保健研究 2006; 65: 643-649.
- 10) 日本保育協会. 保育所制度と保育サービスに関する調査研究報告書. 1998.
http://www.nippo.or.jp/cyosa/09/09_ta.html.
アクセス2009.10.25
- 11) 市川須美子, 浦野東洋一編. 幼稚園設置基準. 教育小六法平成21年版. 東京: 学陽書房. 2009: 178.
- 12) 市川須美子, 浦野東洋一編. 児童福祉施設最低基準. 教育小六法平成21年版. 東京: 学陽書房. 2009: 844.
- 13) 日本保育協会. 改正保育制度施行の実態及び保育所の運営管理に関する調査研究報告書. 2000: 13.
- 14) 真城知己. SPSSによるコンジョイント分析—教育・心理・福祉分野での活用法. 東京書籍. 2001: 7-56.
- 15) 厚生統計協会. 厚生の指標増刊—国民衛生の動向 2009: 48.
- 16) 藤城富美子. 育児の環境整備—保育園と幼稚園の一元化: 認定子ども園を考える. 保育園看護職者の健康支援. 小児保健研究 2008; 67: 236-241.
- 17) 荒木田美香子, 佐藤 潤, 大谷喜美江. 保育所における保健計画の立案・運営状況に関する研究. 健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用および思春期やせ症防止のための学校保健との連携システム構築に関する研究. 平成20年度総括・分担研究報告書. 2009: 111-131.
- 18) フィリップ・コトラー, エデュアル・L・ロベルト. ソーシャルマーケティング行動変革のための戦略. 井関利明監訳. 東京: ダイヤモンド社. 1995: 103-136.
- 19) 稲毛映子. 福島県内の保育施設における看護職の現状に関する調査 期待される役割に関する一考察. 福島県立医科大学看護学部紀要. 2007; 9: 25-40.

- 20) Jackson R, Baird W, Davis-Reynolds L, et al. Qualitative analysis of parents' information needs and psychosocial experiences when supporting children with health care needs. Health Info Libr J. 2008; 25: 31-37.

[Summary]

Purpose

The purpose of this study was to examine the influence that the availability of nurses and school nurse-teachers (nurse availability) gave to mothers' preference conditions of day nurseries and kindergartens (infant facilities).

Methods

A cross-sectional and structured questionnaire study was conducted via the Internet on 544 mothers with children between three and five years of age. The mothers' preference conditions for infant facilities were investigated using conjoint analysis. The reference conditions consisted of four attributes: the time required to get to the infant facilities, childcare conditions, childcare fee, and nurse availability.

Results

Although the average relative importance of the nurse availability was the lowest, it increased for mothers who were aware of the employment of nurses in the infant facilities. Moreover the average relative importance increased in mothers who had children with health-related issues and were aware of the employment of nurses. Mothers who did not have children with health-related issues preferred part-time nurse availability and receiving health consultation, as well as mothers who have child health-related issues.

Conclusion

Nurse availability influenced the mothers' preference of the infant facilities.

[Key words]

conjoint analysis, nurses of day nursery, school nurse-teacher of kindergarten, mother's preference